

北東アジア地域研究、現代中東地域研究国立民族学博物館拠点共催研究会のご報告

人間文化研究機構地域研究推進事業北東アジア地域研究、現代中東地域研究国立民族学博物館拠点では、フランス国立科学研究所(CNRS)よりブノワ・グレヴァン先生(Dr. Benoît Grévin)をお招きし、平成29年11月14日(火)に共同で研究会を開催いたしました。

「Between Linguistics and Magic: The 'Power' of Chinese Characters Linking Medieval Europe, Middle East and Northeast Asia (言語学と魔術のはざまで、——中世ヨーロッパ・中東・北東アジアをつなぐ漢字の「力」)」というタイトルで、中国の漢字が外交官や宣教師を介して中世ヨーロッパに伝わり、書き言葉としてのシステムの異なる漢字が魔術と関係していた可能性などを言語学的な視点に立脚しながら論じました。